

3月4日発表のインド政策金利の引き下げについて

政策金利を7.75%から7.5%に引き下げ

インド準備銀行(中央銀行)は、3月4日に緊急の金融政策決定会合を開催し、政策金利であるレポレート(中央銀行が市中銀行に資金供給を行なう際の金利)を0.25%引き下げ年率7.5%に、リバースレポレート(中央銀行が市中銀行から資金を吸収する際の金利)を0.25%引き下げ年率6.5%とすることを決定しました。現金準備率は4.0%に据え置かれました。

利下げは今年に入って2回目となり、いずれも定例会合以外での決定となっています。2月28日に発表された2015年度予算案は、景気浮揚を重視した内容だったことから、市場では早期利下げは遠のいたとの声もあり、今回の発表は驚きをもって受け止められました。

利下げ発表後の日本時間12時現在、インドルピーは対米ドルで前日比0.4%、対円で同0.2%のインドルピー高で推移しています。

同中銀の想定よりもインフレ率が低下

利下げの背景としては、インフレ率の落ち着きがあると見られます。3月2日、同中銀と政府はインフレ目標の導入で合意したことを発表しましたが、1月のCPI(消費者物価指数)は前年同月比5.11%となり、2016年1月までに6%以下とする目標を既に達成しています。同中銀は2016年4月以降にCPI上昇率を4±2%の範囲におさめるという目標についても達成に自信を深めていると見られます。

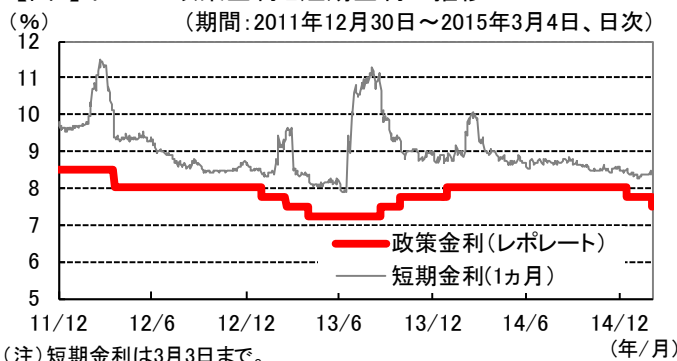
加えて、政府の財政健全化には遅れが見られるものの、2015年度の予算案については一定の評価をしたことも要因となっているようです。

市場では更なる利下げによって、インドの経済成長が後押しされることを期待する声があります。

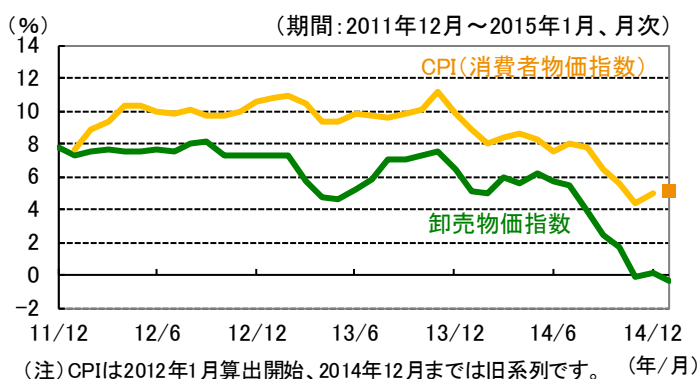
次回の金融政策決定会合は2015年4月7日に予定されています。

以上

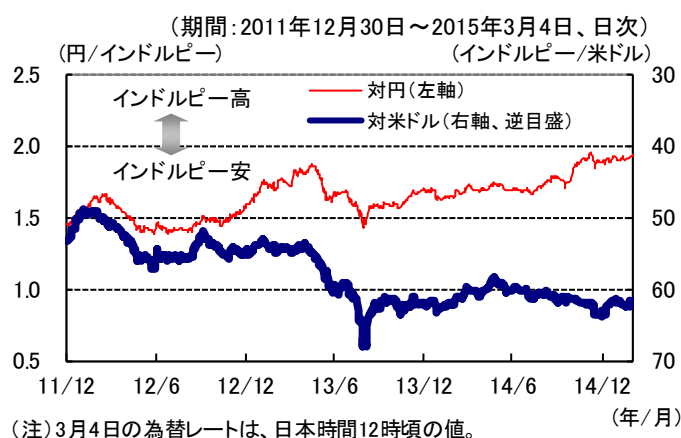
【図1】インドの政策金利と短期金利の推移



【図2】インドの物価指数(前年同月比)の推移



【図3】インドルピーの対円・対米ドルレートの推移



(出所) Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成